



電機・電子4団体における
生物多様性保全の取組みに関する評価結果
～愛知目標達成への貢献について～

電機・電子4団体 生物多様性WG

<http://www.jema-net.or.jp/Japanese/env/biodiversity.html>

2021年3月



評価の目的

- 電機・電子業界の愛知目標達成への貢献度および活動進捗状況の評価
- 電機・電子4団体 生物多様性WGによる会員企業への支援活動の評価
- 評価結果に基づく電機・電子業界による愛知目標への貢献の発信・訴求を通じた業界全体のイメージ向上

評価対象・内容


- 評価対象：「電機・電子4団体生物多様性保全の取組みに関する会員企業アンケート」
2015～2020年度調査結果
- 評価内容：電機・電子業界生物多様性行動指針で掲げた8項目（目標4除く）について、2015～2020年度の活動進捗に対する評価と考察を実施

評価方法

- 各年度のアンケート有効回答数を分母に、行動指針で掲げた各項目（愛知目標）に貢献しているとアンケート回答から判断できる社数を分子にとり、当業界における取組みの割合とその増減について項目別に評価を実施

◆愛知目標1：普及啓発

（行動指針）生物多様性を保全することの重要性が広く認知されるように、従業員への生物多様性に関する教育を積極的に推進する。また、取組み状況の情報発信やステークホルダーとの連携を通して、社会の意識向上に貢献する。

年度	結果	評価
2020	75.7% (134/177)	 向上
2017	69.5% (153/220)	
2015	66.1% (154/233)	

◆考察

2015年度より9.6ポイント増加した。ISO14001の2015年改定※や、WGが制作したコンテンツの利用、各企業における教育やコミュニケーションの推進により、生物多様性に対する認識が向上したと考えられる。WGはセミナー、LSBの制作、行動指針の策定等を通じ支援を行った。


◆今後の課題・方向性

愛知目標1に関しては、環境省が主流化の目安とする75%を達成しており、普及啓発に関する支援活動は一定の役割を果たしたと言える。今後は新たに採択される「ポスト愛知目標」に関する情報展開に務める。

※「生物多様性及び生態系の保護」の環境方針への盛り込みを考慮することが求められるようになった

◆愛知目標5：生息地破壊の抑止

（行動指針）生息地の保護ならびにその劣化と分断を低減するために、生物多様性に配慮した事業所の緑地管理や社会貢献活動、周辺地域における生態系ネットワークの構築などを積極的に推進する。

年度	結果	評価
2020	70.1% (124/177)	 向上
2017	62.3% (137/220)	
2015	65.7% (153/233)	

◆考察


2015年度より4.4ポイント増加した。事業所内外における緑地や里山の整備、外来種・絶滅危惧種への配慮、生物多様性調査、オフィスで利用する紙や原材料調達への配慮などの取り組みが7割の企業で行われている。WGではLTB*の制作や、実践説明会を通じ、これらの具体的な取り組み方法を解説することで支援を行った。

◆今後の課題・方向性

愛知目標5に貢献する活動に既に多くの企業が取り組んでいる。一方で、具体的な取り組み方法の学習ニーズが依然多く寄せられているため、LTBシリーズの活用促進をはたらきかけていく。

◆愛知目標8：化学物質などによる汚染の抑制

（行動指針）生態系や生物多様性にとって有害な汚染を防止するため、グローバル視点で化学物質の適正管理に努め、生態系への悪影響を積極的に抑制する。

年度	結果	評価
2020	65.5% (116/177)	 向上
2017	41.8% (92/220)	
2015	40.3% (94/233)	

◆考察


2015年度より25.2ポイント増加した。調査開始時は事業所緑地などでの農薬・化学肥料の使用抑制を対象としていたが、2018年度以降、製造プロセスにおける化学物質使用削減等を加えたことから、より幅広く貢献を把握できることとなった結果、大幅に伸長したと言える。

◆今後の課題・方向性

愛知目標8に貢献する環境管理に関する取組みは積極的に行われているため、今後は環境配慮型農法で作られた農産物や生物多様性に配慮した認証を受けた食材の社員食堂への導入など、SDGsやESGの視点による取組みも推奨していく。

◆愛知目標9：外来種

（行動指針） 侵略的外来種による影響を防除するため、主に製品の輸送時や事業所の緑地管理、社会貢献活動などにおいて、侵略的外来種の駆除や侵入の防止、ならびに意識啓発を積極的に推進する。

年度	結果	評価
2020	55.4% (98/177)	 向上
2017	39.1% (86/220)	
2015	34.3% (80/233)	

◆考察


2015年度より21.1ポイント増加した。特に、製品輸送時における外来種の侵入対策への配慮に取り組む企業の割合が増加している。WGは港湾でのヒアリ対策について会員企業へ情報共有した他、LTB等で外来種による生物多様性への悪影響を防止する活動について解説をしている。

◆今後の課題・方向性

愛知目標9に貢献する製品輸送時の対策の必要性については理解が進んできていることから、今後、事業所緑地を所有する企業においては、侵略的外来種の駆除や、代替として在来種の 5

◆愛知目標 1 1 : 保護地域の保全

(行動指針) 生物多様性にとって重要な保護地域の面積拡大のため、社有地や事業所における保護地域に資する生物多様性に配慮した緑地管理や、社外の保護地域における保全活動を積極的に推進する。

年度	結果	評価
2020	53.1% (94/177)	 向上
2017	30.9% (68/220)	
2015	24.5% (57/233)	

◆考察


2015年度から28.6ポイント増加した。調査開始時は事業所での生物多様性調査活動に関する設問のみであったが2018年度以降、公的な保護地域での保全活動等を加えたことから、より幅広く貢献を把握できることとなった結果、大幅に伸長したと言える。

◆今後の課題・方向性

愛知目標11に関しては事業所内での活動とともに社会貢献活動としての要素も強く、5割を超える企業が取り組んでいることは高く評価できることであり、WGとしても4団体活動事例データベースなどを活用し積極的にアピールをしていきたい。

◆愛知目標 14：生態系サービス

（行動指針）生態系サービスが持続可能な形で利用できるように、生態系の保全・回復活動を積極的に推進する。

年度	結果	評価
2020	55.4% (98/177)	 向上
2017	46.4% (102/220)	
2015	43.3% (101/233)	

◆考察


2015年度より12.1ポイント増加した。憩いの場の提供による文化的サービスの利用や、生物多様性に配慮した森林・里山の整備活動、持続的な生態系サービスの利用に向けた取組みに関する活動を行う企業の割合が増加したことによる。WGはLTB等によりこれらの具体的な取組み方法を解説することで支援を行った。

◆今後の課題・方向性

愛知目標14に関し、企業における持続的な自然資本調達に関する取組みの重要性が今後更に増すと思われるため、WGとして国内外の動向をキャッチアップしていく。

◆愛知目標 19：知識・技術の向上と普及

（行動指針）生物多様性に関する知識、科学的基盤、及び技術の向上を目指し、情報通信技術を使ったモニタリング技術の開発と普及、生物多様性モニタリングによるデータ蓄積などを積極的に推進する。

年度	結果	評価
2020	41.2% (73/177)	 向上
2017	36.8% (81/220)	
2015	30.0% (70/233)	

◆考察

2015年度より11.2ポイント増加した。生物への悪影響を低減させる技術、センサ等による生物の観測技術、生物調査を行うためのツールなど、自社の製品・技術による生物多様性への貢献を認識している企業の割合が増加したと考えられる。

◆今後の課題・方向性

愛知目標19に関連する、製品・サービスにおける生物多様性への影響評価に関する取組みは現状なかなか伸展しないが、今後、ISO等における手法の標準化が進むものと思われ、WGとして動向を注視していく。

◆取組み企業割合まとめ（2015年度→2020年度）

愛知目標	2015年度結果	2020年度結果	差分
目標 1	66.1%	75.7%	+9.6%
目標 5	65.7%	70.1%	+4.4%
目標 8	40.3%	65.5%	+25.2%
目標 9	34.3%	55.4%	+21.1%
目標 1 1	24.5%	53.1%	+28.6%
目標 1 4	43.3%	55.4%	+12.1%
目標 1 9	30.0%	41.2%	+11.2%
少なくとも愛知目標 （行動指針で掲げ た項目）のいずれ かに貢献している企 業の割合の推移	75.0%	81.4%	+6.4%

電機・電子業界における行動指針に選定した全ての愛知目標において2015年度より進展した。少なくとも1つ以上の愛知目標への達成に貢献している企業の割合は、2015年度75.0%から更に増加し、2020年度では81.4%となった。

【総括】電機・電子業界の愛知目標への貢献

- 電機・電子業界における行動指針に選定した全ての愛知目標において2015年度から進展しており、行動指針に選定した愛知目標に対し少なくとも1つ以上に貢献していると判断できる企業の割合は2020年度で81.4%であった
- 環境省による主流化達成の目安である75.0%を超えたことから、電機・電子業界における生物多様性の主流化は達成され、且つ愛知目標の達成に向けて電機・電子業界として貢献を果たしたと評価する

